

ゴマダラカミキリ

○ 被害と発生生態

多くの樹木を加害するが、特にカンキツ類の害虫として知られており、天牛（てんぎゅう）とも呼ばれる。

苗木では、幼虫の食害によって生育不良となり、1頭の加害で枯死することも多い。

成虫は体長 2.5 ～ 3.5 cm で、全身が黒く、前翅には白い斑点がある。雌に比べると雄がやや小さく、触角の長さは雌では体長の 1.2 倍、雄では体長の 1.7 ～ 2 倍のため容易に区別できる。

幼虫は、樹皮下の木質部を食害し、樹脂や木くずを排出する。大きくなるにつれて幹の根元深くに食入し、越冬する。

成虫は 6 ～ 7 月に出現する。発生最盛期は 6 月下旬～7 月上旬で、羽化後 10 日程度枝や葉を食害（後食）した後、株元に産卵する。産卵は 6 ～ 9 月まで行われるが、最盛期は 6 ～ 7 月である。主に 1 年で成虫となるが、8 月以降に産卵されたものは 2 年を要する。

○ 防除方法

（ア）耕種・物理的防除

- ・被害樹、被害枝は切り取り、4 月までに焼却処分する。
- ・成虫は見つけ次第捕殺する。
- ・幼虫食入期に針金で刺殺する。
- ・産卵及び幼虫食入か所を木づち等で叩いて圧殺する。
- ・株元にネットや金網等を巻き、産卵を防止する。

（イ）薬剤防除

- ・苗木では、樹幹塗布を実施する。
- ・広域でミカンの株元に生物農薬製剤（バイオリサカミキリ）を施用する。
- ・産卵防止のため株元に薬剤を塗布する。
- ・成虫発生期の 6 ～ 7 月に樹冠部と株元に薬剤を散布する。
- ・産卵期には食入幼虫を対象に防除する。



成虫 (30 ～ 40 mm)



卵 (4 mm)



幼虫 (20 ～ 50 mm)